

第3節 今後の課題

1 名勝追加指定の方向性

「図Ⅲ－2 名勝「二見浦」指定範囲図」(P. 95)で示したとおり、御塩殿から五十鈴川河口に至るまでの砂浜と松林の海岸線に代表される「名勝追加指定検討地区」は、広義の二見浦として捉えることのできる場所であるため、土地所有関係の調査・確認を行い、名勝の追加指定を検討することとする。

2 三重県指定名勝の方向性

三重県指定名勝として残っている旅館街は、「三重県近代和風建築総合調査」の成果に基づき、保護のあり方を検討する。手法として、まずは優良な建築物に関し、文化財の登録制度の活用(登録有形文化財)を積極的に進めることとし、さらには重要伝統的建造物群保存地区又は重要文化的景観の選定も視野に含め、所有者、住民及び行政関係者等との検討を進めることとする。

3 意識啓発のための企画の推進

地域住民が二見浦を誇りにし、名勝の適切な保存管理のあり方について認識を共有していくため、二見浦保勝会(仮称)は情報を発信し、意識の高揚に努めていく必要がある。また、次世代への継承のため、小中学校等、地域の教育機関との連携も必要である。

第IV章引用・参考文献

三重県教育委員会『三重県近代和風建築総合調査報告』2008